

## トキの森公園

トキ(クレストッドアイビス)は長くて細いくちばしと白い羽毛を持つ大型の鳥です。大正時代(1912～1926年)に乱獲が原因で推定絶滅状態になるまでは日本中で繁殖していました。種の復活が始まったのは1980年のことでした。中国で見つかったトキの一群が佐渡島に持ち込まれ、生き残っていた国内のトキと共に指定繁殖施設での保護繁殖がスタートしたのです。佐渡で繁殖させた最初のトキは1999年に生まれ、2008年には一群が野生に放されました。現在は400羽以上のトキが佐渡で平和に暮らしています。

トキ繁殖施設の敷地にあるトキの森公園は、インフォメーションセンターと観察窓で構成されています。訪問者は観察窓を通して安全な距離から飼育ケージの中の鳥を見ることができます。トキ資料展示館はトキの歴史や生態、繁殖について紹介しています。訪問者はビデオや体験型展示を通して、トキがどのようにして日本に帰ってきたか、そして研究者たちがいかにしてさまざまな障害を乗り越え、公園内で行われている繁殖プログラムを始めることができたのか学べます。

隣接する「トキふれあいプラザ」は、トキが繁殖施設の外で暮らす訓練を受けるために維持されている自然生息地です。訪問者は観察デッキからトキがエサを探したり、飛んだり、日常生活を営んだりする姿を眺められます。トキを野生で見かけた時は近づくべきではないので、観察デッキがこの鳥に最も近づくことのできる場所です。

